

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

# 2015年度（2016年3月期） 第1四半期 決算説明会

2015年 7月30日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2015. All rights reserved.



## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

## ■ 2015年度の開示セグメントについて

2015年4月に、SE15後期 新中期経営計画の総仕上げ、2015年度の事業計画達成、および2016年度以降を見据えた最適フォーメーションを構築するため組織変更を実施しました。これに伴い、2015年度から開示セグメントを、マネジメント・アプローチに基づき変更いたしました。なお、2014年度の実績も、2015年度との比較説明に表示する場合は、新しい開示セグメントに合わせて記載しています。

## ■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

- 1 2015年度 第1四半期決算
- 2 2015年度 業績予想

## 決算ハイライト（第1四半期決算）

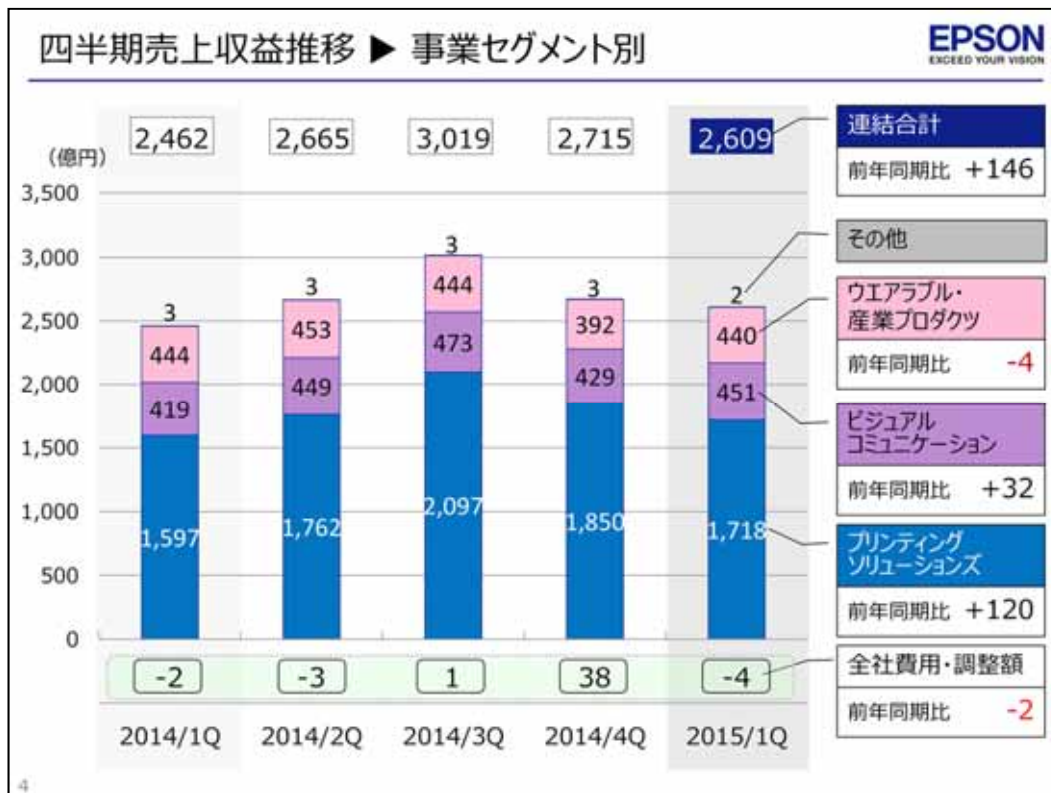


| (億円)         | 2014年度          |                  | 2015年度      |      | 増減額  | 増減率                |
|--------------|-----------------|------------------|-------------|------|--|--------------------|
|              | 1Q実績            | %                | 1Q実績        | %    |  |                    |
| 売上収益         | 2,462           | -                | 2,609       | -    | +146   | +6.0%              |
| 事業利益         | 235             | 9.5%             | 165         | 6.3% | -69  | -29.8%             |
| 営業利益         | 546<br>※1 (245) | 22.2%<br>(10.0%) | 162         | 6.2% | -383<br>(-82)                                | -70.2%<br>(-33.6%) |
| 税引前<br>四半期利益 | 547<br>(246)    | 22.2%<br>(10.0%) | 160         | 6.1% | -386<br>(-86)                                | -70.7%<br>(-35.0%) |
| 四半期利益        | 465<br>(165)    | 18.9%<br>(6.7%)  | 105         | 4.0% | -360<br>(-59)                                | -77.3%<br>(-36.1%) |
| ※2 EPS       | 130.23<br>円     |                  | 29.43<br>円  |      | ※1 2014年度1Qの営業利益は、一時的な利益となる年金制度改定益約300億円を計上。 |                    |
| 換算<br>レート    | USD             | 102.16<br>円      | 121.36<br>円 |      | ( ) 内は、各利益から年金制度改定益を除いた参考値。                  |                    |
|              | EUR             | 140.07<br>円      | 134.16<br>円 |      |  |                    |

※2 2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施。EPSは、株式分割後の発行済み株式数（自己株式除く）により算出

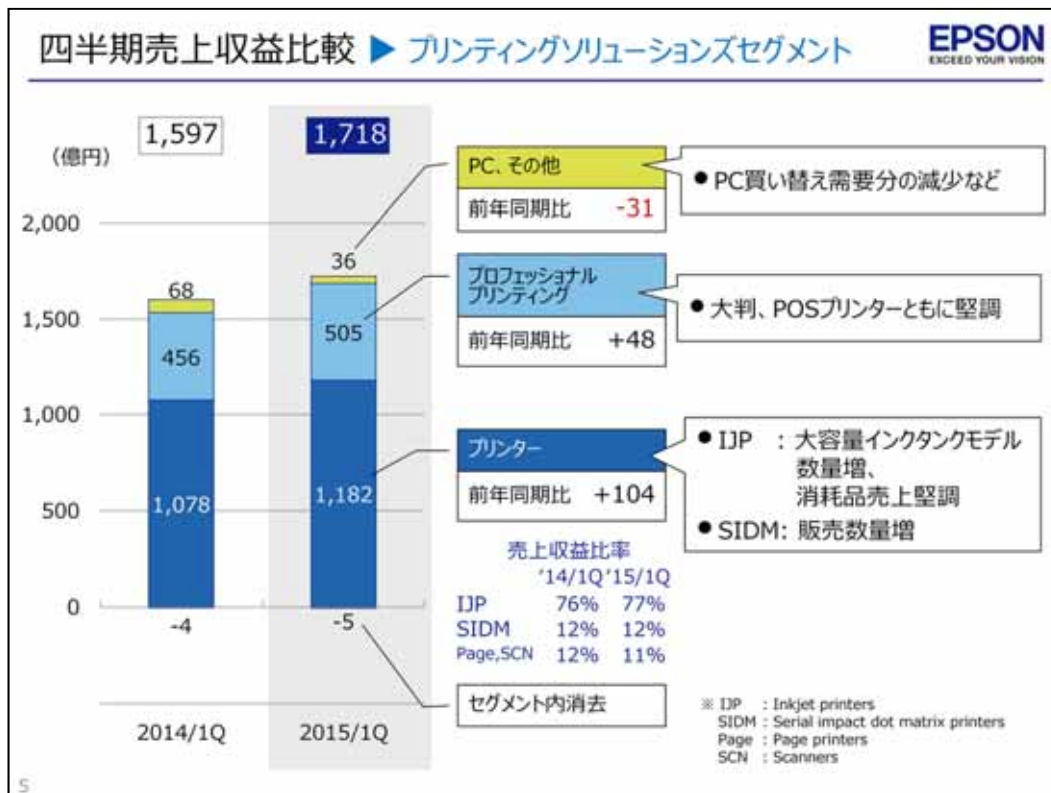
### ■ 2015年度 第1四半期の実績

- 売上収益は、前年同期比で、6%増収の 2,609億円、
- 事業利益は、69億円減益の 165億円、
- 四半期利益は、前年同期の営業利益に、一時的な利益となる年金制度改定益 約300億円を計上していたため 360億円減益の105億円。
- なお、年金制度改定益を除いた四半期利益に対しては、59億円の減益。



■ 事業セグメント別の四半期売上収益推移

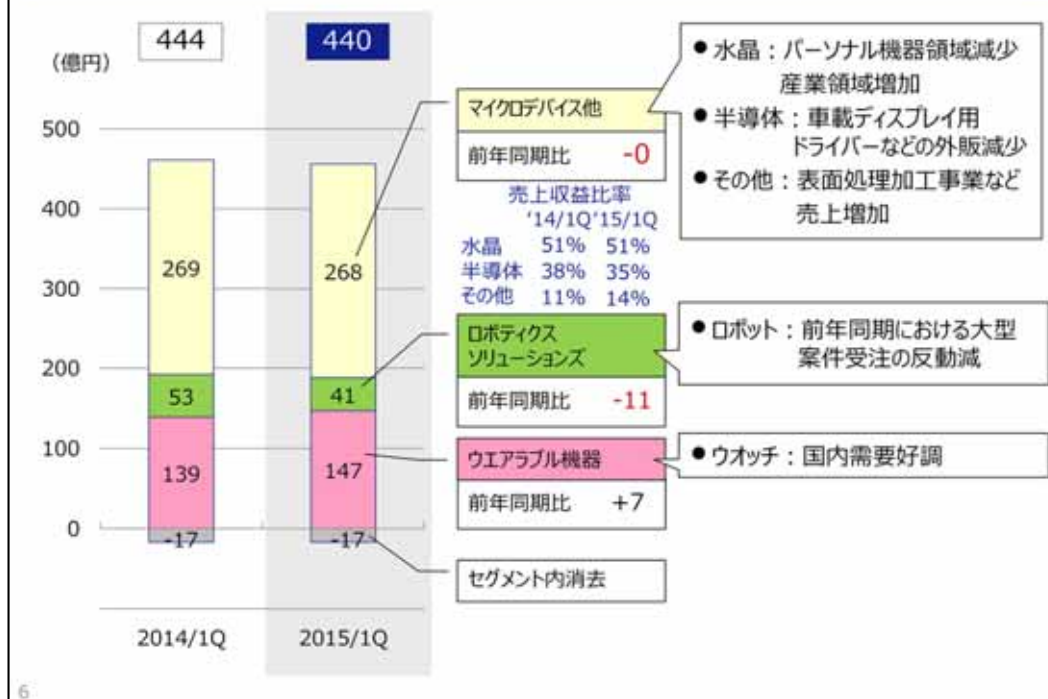
- 前年同期に対し、  
プリンティングソリューションズは、120億円の増収、  
ビジュアルコミュニケーションは、32億円の増収、  
ウェアラブル・産業プロダクツは、前年同期並み。
- なお、当四半期における売上収益の為替影響は、  
前年同期比で約218億円のプラス影響。
- セグメント別売上収益について、前年同期、および4月30日に開示した  
業績予想の前提となる第1四半期の社内計画と比較して説明。
- まず、ビジュアルコミュニケーションについて、前年同期との比較では、  
プロジェクターが、サッカーワールドカップ特需があった前年同期に対し、  
南米向けや欧州向けのエントリー機を中心に販売数量が減少したが、  
高光束や超/短焦点などの高付加価値商品の販売が堅調に推移し、  
また為替のプラス影響もあり、増収。
- 一方、社内計画比では、プロジェクターが、南米向けで通貨下落の影響、  
欧州向けで教育予算の執行遅れなどの影響を受けたものの、  
超/短焦点など高付加価値商品の販売が、ほぼ計画通りに推移し、  
為替のプラス影響もあり、社内計画並みの売上収益となった。



■ プリンティングソリューションズ事業セグメントの第1四半期売上収益の前年同期比較

- プリンターは、インクジェットプリンターにおいて、インクカートリッジモデルの販売数量が減少したものの、アジアを中心に大容量インクタンクモデルの販売数量が順調に拡大するとともに、先進国では、消耗品がMIF構成の改善にともない堅調に推移。
- さらに、SIDMにおいて、中国・マレーシアの徴税需要増により販売数量が増加し、為替のプラス影響もあり、プリンター事業で104億円の増収。
- プロフェッショナルプリンティングは、フォト・グラフィック向けや業務用フォト向けを中心に、大判プリンターの本体・消耗品の売上が増加したことや、米国などにおいてPOSプリンターの入札案件やチャネル販売が好調に推移したことに加え、為替のプラス影響もあり、48億円の増収。
- なお、プリンターとプロフェッショナルプリンティングは、為替のプラス影響を除いても、増収。
- PC その他は、前年同期に、OS切り替えにとまなう一時的なPCの需要増があったことから、今期は31億円の減収。
- 社内計画に対しては、インクカートリッジモデルが、日欧における一部流通在庫の増加による4・5月のセルイン減や、米国を中心とした他社の価格プロモーションに対し、採算性を考慮した販売を行ったことにより、数量が未達となったものの、大容量インクタンクモデルが、南米の通貨下落などのリスクを織り込んだ計画に対して若干上回ったうえ、消耗品およびプロフェッショナルプリンティングの業務用フォトやPOSプリンターが堅調に推移したことに加えて、為替のプラス影響もあり、セグメントの売上収益は、社内計画に対し上回った。

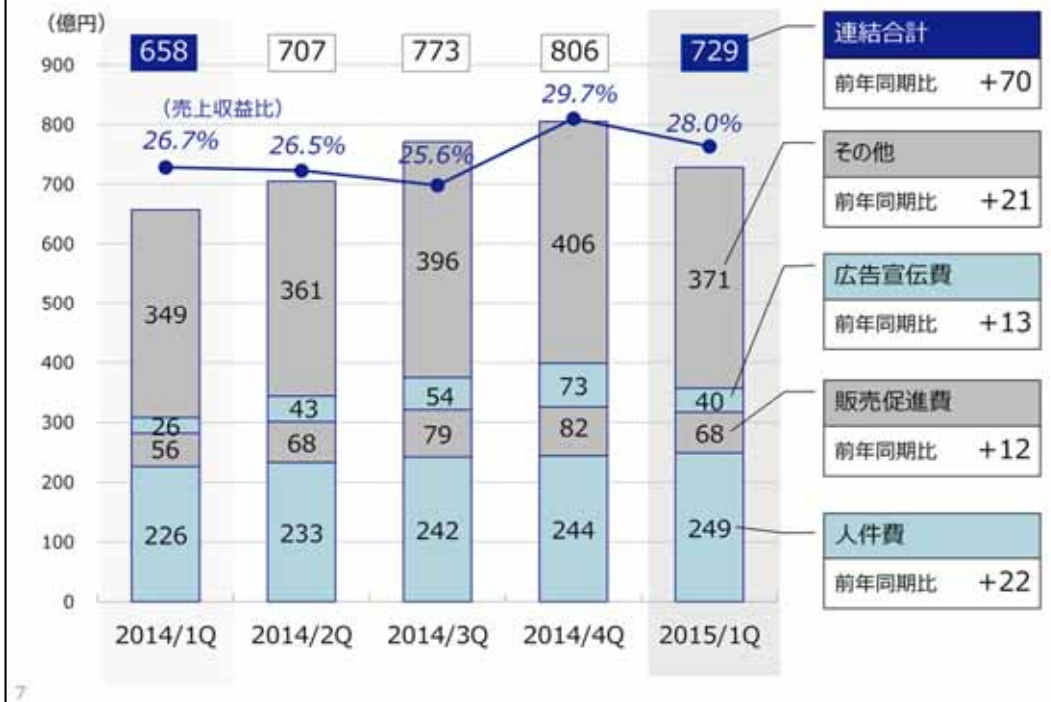
## 四半期売上収益比較 ▶ ウェアラブル・産業プロダクツセグメント



### ■ ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントの第1四半期売上収益の前年同期比較

- ウェアラブル機器は、ウォッチにおいて、インバウンド需要を含む国内の販売が好調に推移し、為替のプラス影響もあり、7億円の増収。
- ロボティクスソリューションズは、前年同期に大型案件の受注があった反動で、11億円の減収となったが、中華圏や欧米を中心に需要は堅調。
- マイクロデバイス他は、  
水晶では、パーソナル機器領域の売上が減少したものの、産業領域向けの売上が増加、  
半導体では、前年同期で好調に推移した車載ディスプレイ用ドライバーなどの需要が、通常の水準に戻る一方で、  
その他事業の表面処理加工事業で、新規顧客の開拓進展により売上が増加し、  
為替のプラス影響もあり、事業としては前年同期並み。
- なお、社内計画に対しては、事業ごとの進捗に差はあるものの、セグメントの売上収益は計画に沿って推移。

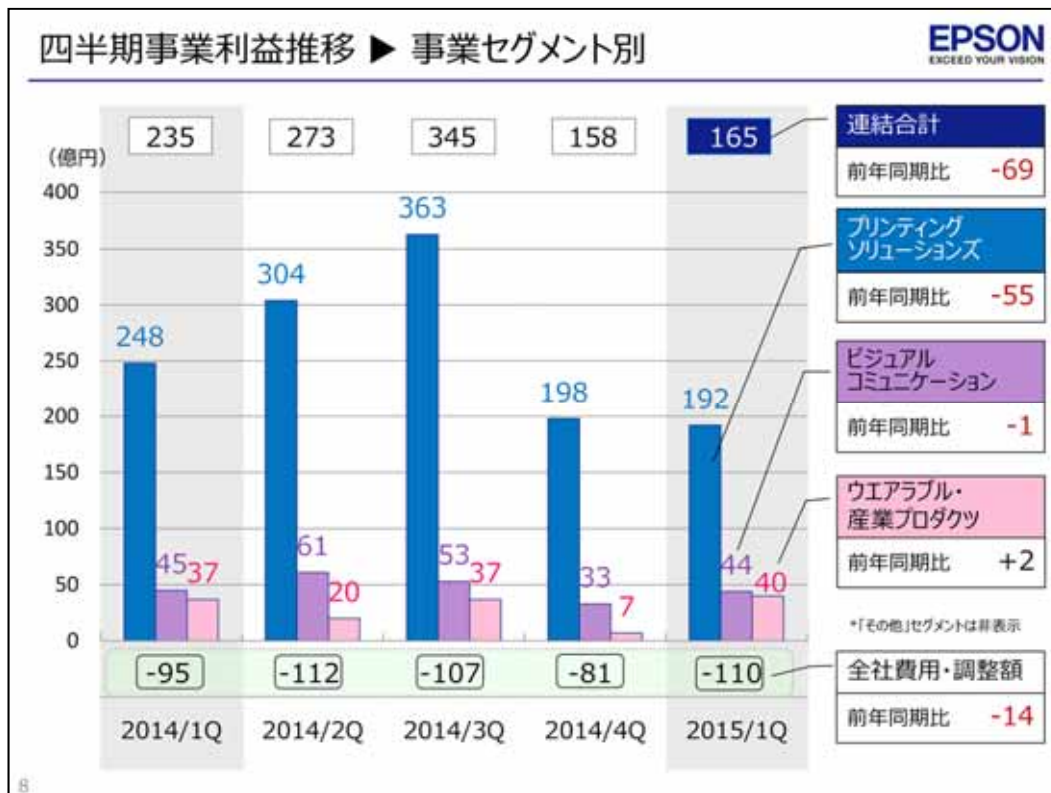
## 四半期販売費及び一般管理費推移



### ■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 第1四半期の販売費及び一般管理費は、ドル高による円換算費用の増加とともに、人件費の増加に加え、ブランド強化や新規領域拡大のためのプロモーション活動推進などの広告宣伝費ならびに販売促進費の増加、および、今後の成長を牽引する戦略的商品のための研究開発費の増加などにより、前年同期に対し70億円の増加。





■ 事業セグメント別の四半期事業利益推移

- 第1四半期は、会社全体で前年同期比 69億円 の減益。
- 為替の影響は、前年同期比でマイナス1億円。
- プリンティングソリューションズは55億円の減益。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターの販売数量が減少するとともに、ドル高により海外生産品の製造コストが増加したものの、高付加価値商品が増加したことによるモデルミックス変動の効果があり、前年同期並み、社内計画並み。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、売上収益が前年同期並みとなったことにより、事業利益も前年同期並みとなったが、社内計画に対しては、為替の影響および水晶事業の固定費削減効果などにより、上回った。
- また、全社費用・調整額は、戦略的ブランド投資および研究開発費の増加などにより14億円の費用増。

<前年同期比>

- ◆ プリンティングソリューションズの減益により全社で減益
  - ⇒ 前回予想に織り込み済み
    - + IJPの大容量インクタンクモデルおよび消耗品の売上拡大
    - △ IJPのインクカートリッジモデル生産数量の増加
    - △ 中期的成長のための投資と費用の戦略的な投下
    - △ ドル高による海外生産品の製造コスト増加

<社内計画比>

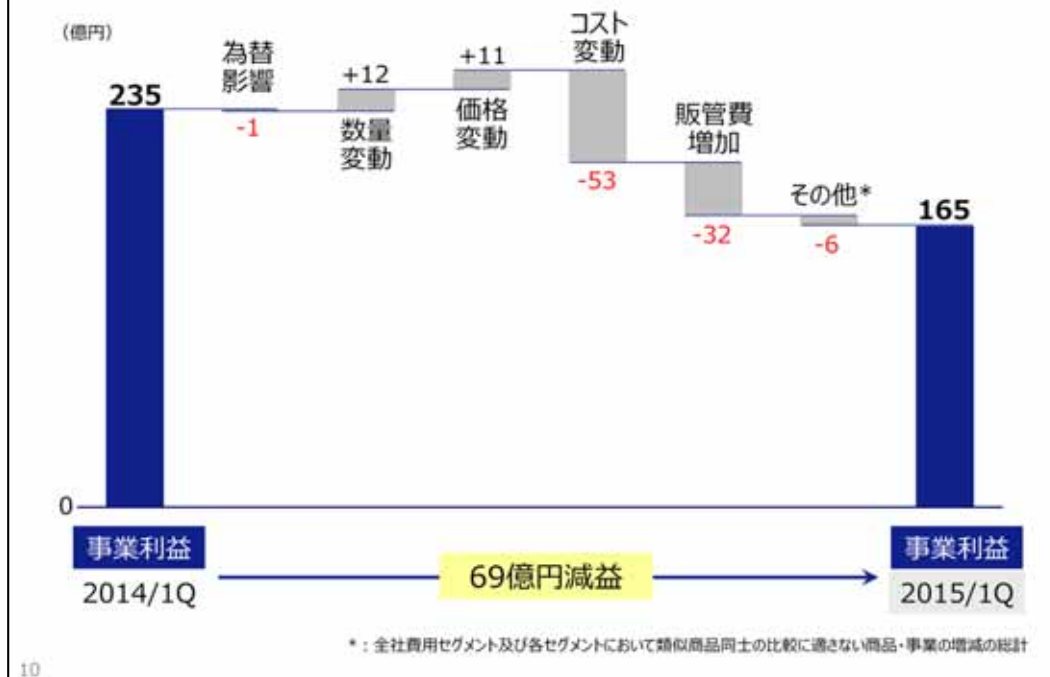
- ◆ プリンティングソリューションズの未達により全社で若干の未達
  - ⇒ 前回予想からの変化
    - + IJPの大容量インクタンクモデルおよび消耗品は堅調
    - △ IJPのインクカートリッジモデルの生産タイミングの調整

9

■ 2015年度 第1四半期 事業利益のポイント

- 前年同期に対する事業利益の減益は、主にプリンティングソリューションズの減益によるもの。
- 前回、今期の業績予想発表の際に、全社およびプリンティングソリューションズの上期での減益計画に織り込み、説明したとおり、インクジェットプリンターにおいて、大容量インクタンクモデルおよびインクカートリッジモデル消耗品の増収効果があったものの、インクカートリッジモデルの生産数量が、低い水準だった前年同期に対して増加したことに加え、中期的な成長のための投資と費用の戦略的な投下を、計画通りに実施するとともに、ドル高による海外生産品の製造コスト増加もあり、セグメント全体で減益。
- また、社内計画に対しては、プリンティングソリューションズの未達により、全社で若干の未達。
- インクジェットプリンターにおいて、戦略の要となる大容量インクタンクモデルおよび消耗品などは、堅調に推移。
- 一方、足元から年末商戦までの販売見通し、および新製品の立ち上げ状況を見据えて、インクカートリッジモデルについて、生産のタイミングを調整した結果、第1四半期に生産数量が増加し、事業利益は、社内計画に対して未達。
- なお、第2四半期以降の生産数量は、前回予想の前提となる計画より減少することから、年間を通じての影響は発生しない見込み。

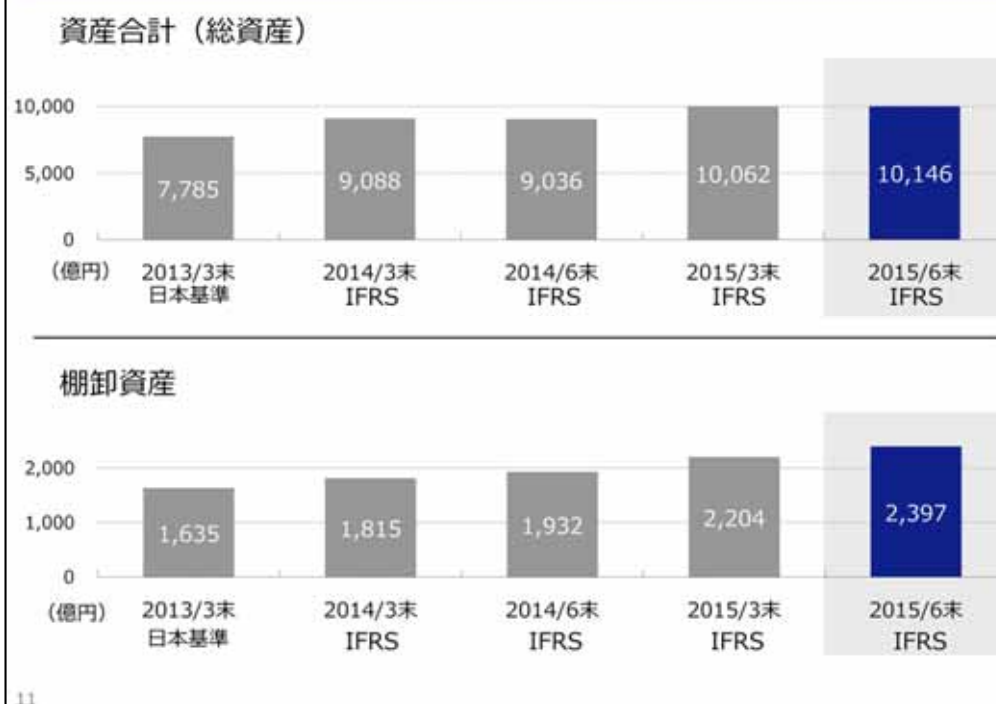
## 事業利益増減要因分析



### ■ 事業利益の前年同期比の要因分析

- 為替は、ドルは円安に推移する一方で、ユーロが円高に推移したことにより、為替影響はバランスした。
- 数量変動は、大容量インクタンクモデルの増加や消耗品の販売増加などにより、プラス。
- 価格変動は、特に、プロジェクターの高付加価値モデルが堅調だったことから、モデルミックス変動によりプラス。
- コスト変動は、価格変動のモデルミックス変動分に見合ったコスト上昇に加え、インクカートリッジモデルの本体生産数量の増加に伴う、低価法評価減の増加などにより、マイナス。
- 販管費は、将来成長に向けたプロモーション費用や研究開発費用が増加。

## 財政状態計算書主要項目推移



### ■ 財政状態計算書の主要項目

- 資産合計は、棚卸資産の増加などにより、前期末に比べ 84億円増加。
- 棚卸資産は、季節要因による増加に加え、  
インクジェットプリンターやプロジェクターにおける販売数量の計画未達により、  
一時的に増加。

## 財政状態計算書主要項目推移

### 有利子負債・有利子負債依存度



### 親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率 (自己資本・自己資本比率)



\*有利子負債：リース負債を含む

12

### ■ 財政状態計算書の主要項目

- 有利子負債は、前期末に比べて 45億円増加し、1,905億円となり、総資産の有利子負債依存度は 18.8%。
- ネットキャッシュは、315億円。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、前期末に比べて 54億円増加し、親会社所有者帰属持分比率は 49.3%。

- 1 2015年度 第1四半期決算
- 2 2015年度 業績予想

<2015年度上期・通期の売上収益、各段階利益は据え置き>

- ◆ 世界経済は、南米通貨下落、ロシア経済低迷、中国経済減速、米国利上げなどの不透明な要素が多いものの、プリンター・プロジェクターなどの各市場では、足元で業績予想を見直すほどの大きな変動要因はない
- ◆ エプソンの基本的な戦略は、進捗状況に多少濃淡はあるものの、全体として計画に沿って推移
  - ✓ IJPの大容量インクタンクモデル販売拡大
  - ✓ IJPのMIF(市場稼働台数)の質改善による消耗品販売増加
  - ✓ プロジェクターの販売数量増加および高付加価値商品販売増加
  - ✓ 各新規領域の着実な進展

14

#### ■ 2015年度業績予想のポイント

- 世界経済は、南米の通貨下落、ロシア経済の低迷、中国の経済減速、米国の利上げなど不透明な要素が多いものの、プリンターならびにプロジェクターなどの各市場では、足元で4月30日に開示した業績予想を見直すほどの大きな変動要因はなし。
- また、エプソンの基本的な戦略となる、大容量インクタンクモデルの販売拡大、インクジェットプリンターのMIFの質改善による消耗品販売増加、プロジェクターにおける販売数量の増加および高付加価値商品の販売増加、各新規領域の着実な進展、などは、多少の濃淡はあるものの、全体として計画に沿って推移していると認識。
- さらに、第1四半期の事業利益が、社内計画比で若干の未達となった主要因のインクカートリッジモデル生産数量は、第2四半期以降は期初計画より減少することから、四半期での入り繰りの可能性はあるが、年間を通じての影響は発生しない見込み。
- 以上を勘案し、今回の業績予想においては、上期・通期ともに売上収益および各段階利益を据え置き。

## 2015年度業績予想



| (億円)      | 2014年度             |                 | 2015年度      |      |             |      | 前期実績比  | 前回予想比              |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
|-----------|--------------------|-----------------|-------------|------|-------------|------|--|--------------------|-------------|--|------|------|-----|--------|-------|-----|--------|-------|
|           | 実績                 | %               | 前回予想        | %    | 今回予想        | %    |  |                    |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| 売上収益      | 10,863             | -               | 11,300      | -    | 11,300      | -    | +436<br>+4.0%  | ±0<br>±0.0%        |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| 事業利益      | 1,012              | 9.3%            | 1,020       | 9.0% | 1,020       | 9.0% | +7<br>+0.7%  | ±0<br>±0.0%        |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| 営業利益      | 1,313<br>※1(1,013) | 12.1%<br>(9.3%) | 1,000       | 8.8% | 1,000       | 8.8% | -313<br>-23.9%   | (-13)<br>(-1.3%)   | ±0<br>±0.0% |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| 税引前利益     | 1,325<br>(1,024)   | 12.2%<br>(9.4%) | 1,000       | 8.8% | 1,000       | 8.8% | -325<br>-24.5%   | (-24)<br>(-2.4%)   | ±0<br>±0.0% |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| 当期利益      | 1,127<br>(827)     | 10.4%<br>(7.6%) | 700         | 6.2% | 700         | 6.2% | -427<br>-37.9%   | (-127)<br>(-15.4%) | ±0<br>±0.0% |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| EPS<br>※2 | 314.61<br>円        |                 | 195.65<br>円 |      | 195.65<br>円 |      | ●今回予想 2Q以降の為替レート前提<br>USD : 115.00円 / EUR : 125.00円<br>●為替感応度 (1円円安の年間影響額)<br><table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>売上収益</th> <th>事業利益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>USD</td> <td>+約39億円</td> <td>+約2億円</td> </tr> <tr> <td>EUR</td> <td>+約12億円</td> <td>+約8億円</td> </tr> </tbody> </table> |                    |             |  | 売上収益 | 事業利益 | USD | +約39億円 | +約2億円 | EUR | +約12億円 | +約8億円 |
|           | 売上収益               | 事業利益            |             |      |             |      |  |                    |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| USD       | +約39億円             | +約2億円           |             |      |             |      |  |                    |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| EUR       | +約12億円             | +約8億円           |             |      |             |      |  |                    |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
| 換算レート     | USD<br>109.93<br>円 |                 | 115.00<br>円 |      | 117.00<br>円 |      |  |                    |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |
|           | EUR<br>138.77<br>円 |                 | 125.00<br>円 |      | 127.00<br>円 |      |  |                    |             |  |      |      |     |        |       |     |        |       |

※1 2014年度営業利益には、年金制度改定益約300億円、固定資産売却益など、一時的な利益を計上。

( ) 内は、各利益から年金制度改定益を除いた参考値。

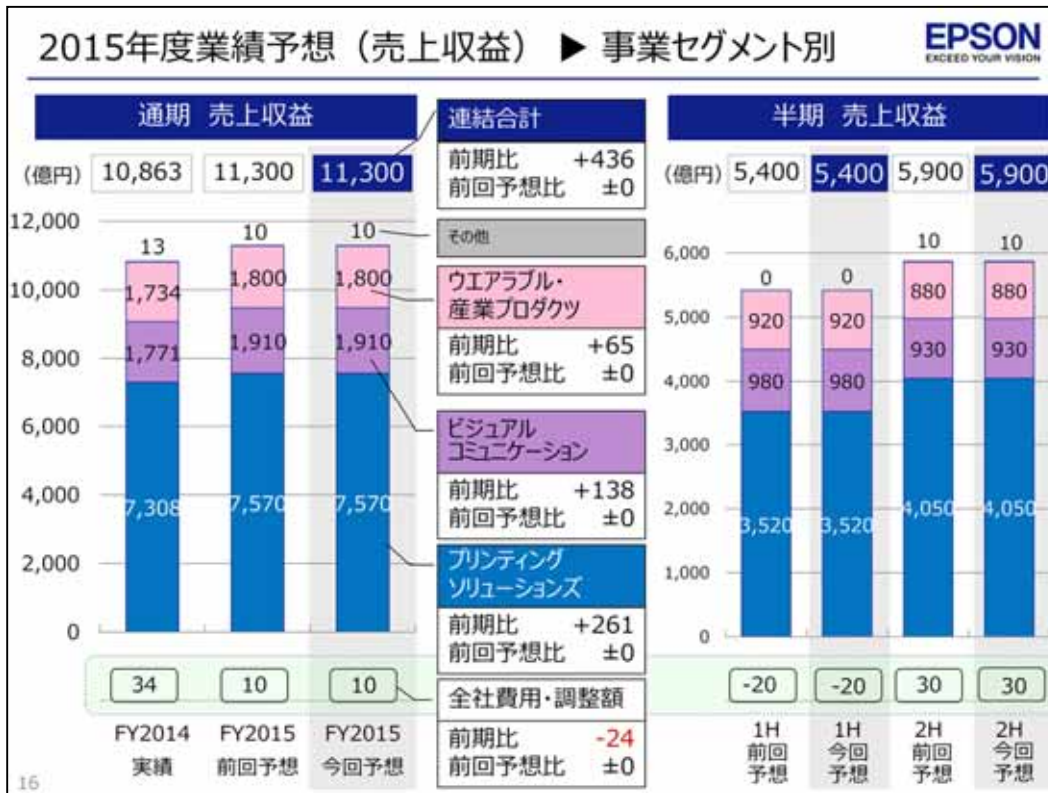
※2 2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施。EPSは、株式分割後の発行済み株式数（自己株式除く）により算出

15

### ■ 2015年度通期の業績予想

- 前回予想を据え置き、  
売上収益は、1兆1,300億円、  
事業利益は 1,020億円、  
営業利益は 1,000億円、  
当期利益は 700億円。
- 第2四半期以降の前提となる為替レートも、前回予想前提と同じ  
USD115円、EUR125円。
- また、1円の円安による年間の事業利益への為替感応度も、  
USDが2億円、EURが8億円に変更なし。

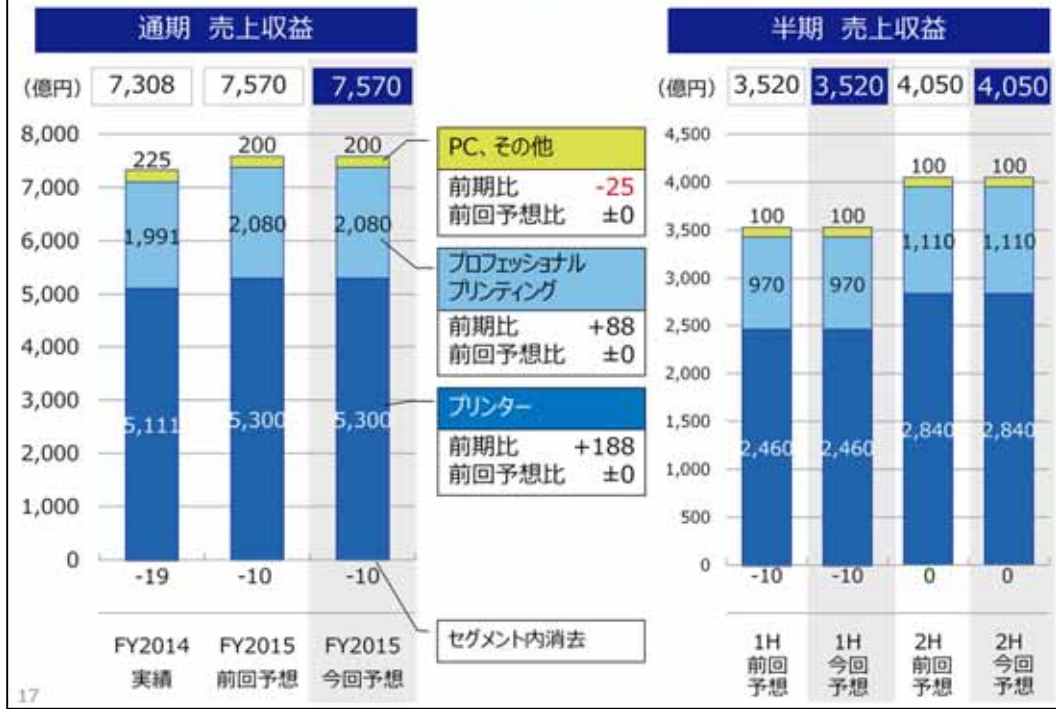




■ 2015年度の事業セグメント別売上収益予想と、上期・下期別の内訳

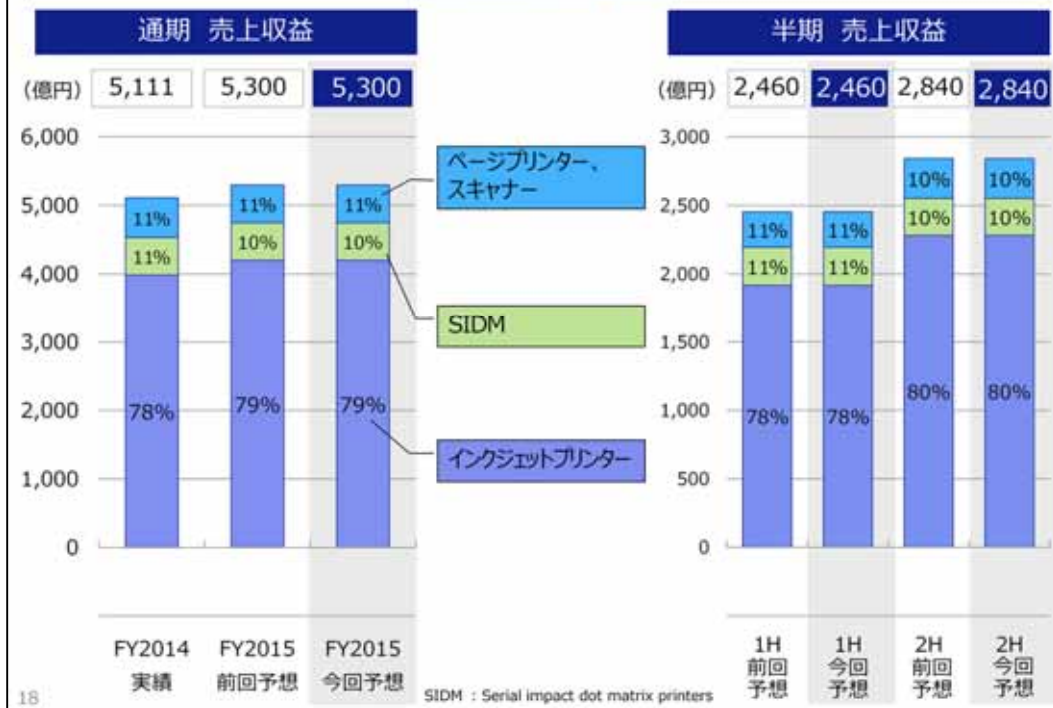
- ▶ セグメント以下の売上収益及び事業利益も、前回予想値を据え置く。
- ▶ 通期の売上収益は、  
 プリンティングソリューションズが、7,570億円、  
 ビジュアルコミュニケーションが、1,910億円、  
 ウェアラブル・産業プロダクツが、1,800億円  
 を見込む。
- ▶ なお、年間のインクジェットプリンター販売数量は、  
 第1四半期において、社内計画に対し、  
 インクカートリッジモデルが減少した一方で、  
 大容量インクタンクモデルが上回ったことを加味し、  
 前期比で4%の増加を見込む。
- ▶ また、プロジェクターの販売数量は、引き続き、  
 エントリー機から高光束、インタラクティブ機まで幅広いラインアップを生かし、  
 市場成長を上回る 前期比7%の増加を見込む。

事業別売上収益予想 ▶ プリンティングソリューションズセグメント **EPSON**  
EXCEED YOUR VISION



- プリンティングソリューションズ事業セグメントの事業部門別売上収益予想と、上期・下期別の内訳

# 事業別売上収益予想 ▶ プリンター事業



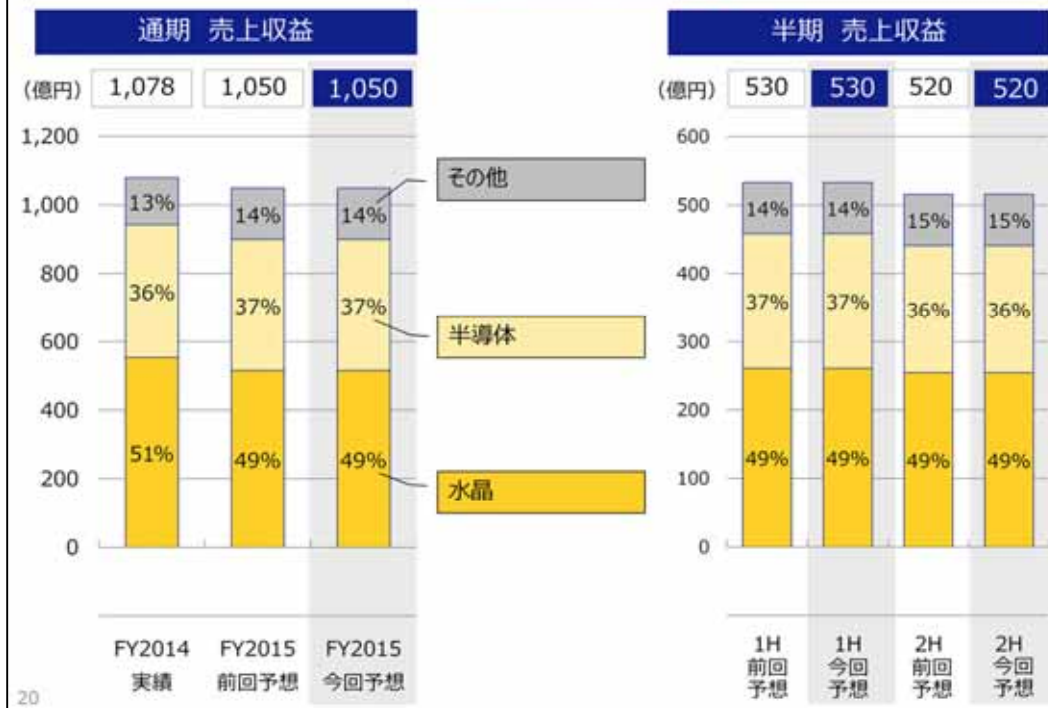
- プリンター事業の製品別売上収益予想と、上期・下期別の内訳

事業別売上収益予想 ▶ ウェアラブル・産業プロダクツセグメント **EPSON**  
EXCEED YOUR VISION



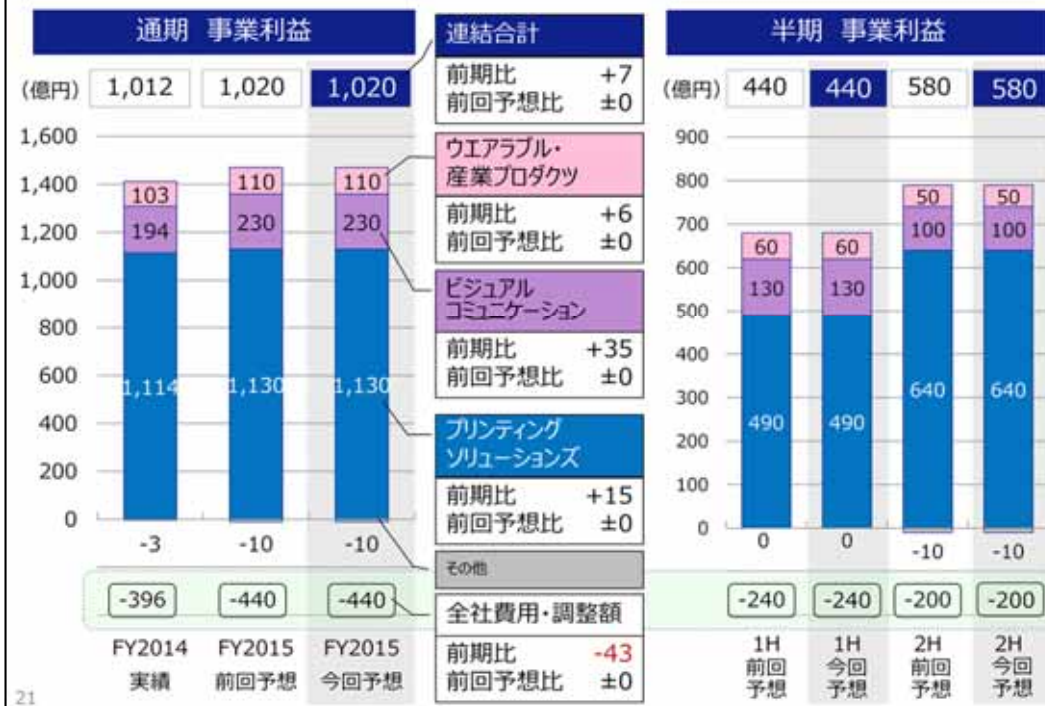
- ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントの事業部門別売上収益予想と、上期・下期別の内訳

# 事業別売上収益予想 ▶ マイクロデバイス他事業



- マイクロデバイス他事業の製品別売上収益予想と、上期・下期別の内訳

## 2015年度業績予想（事業利益） ▶ 事業セグメント別



### ■ 事業利益の事業セグメント別予想と、上期・下期別の内訳

- ▶ こちらも、前回予想を据え置き、通期の事業利益は  
 プリンティングソリューションズで、1,130億円、  
 ビジュアルコミュニケーションで、230億円、  
 ウエアラブル・産業プロダクツで、110億円 を見込む。

## 設備投資・減価償却費見通し

EPSON  
EXCEED YOUR VISION



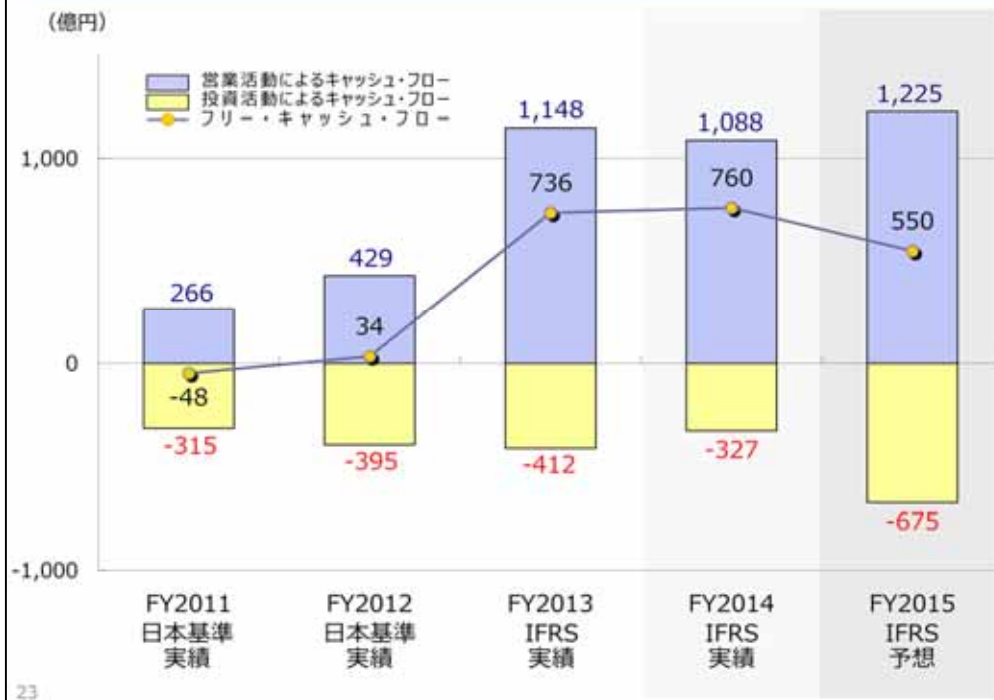
| <セグメント別内訳>      | FY2014 実績 |       | FY2015 予想 |       |
|-----------------|-----------|-------|-----------|-------|
|                 | 設備投資      | 減価償却費 | 設備投資      | 減価償却費 |
| プリンティングソリューションズ | 221       | 230   | 320       | 250   |
| ビジュアルコミュニケーション  | 68        | 72    | 90        | 80    |
| ウェアラブル・産業プロダクツ  | 83        | 80    | 90        | 90    |
| その他・全社費用        | 80        | 61    | 200       | 50    |

22

### ■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資も、前回予想を据え置き。
- 次世代の商品・キーデバイスの先行開発、  
中期的な生産能力構築に向けたフィリピンおよびインドネシアの工場増強、  
好調な大容量インクタンクモデルおよびプロジェクターの増産対応など、  
中長期的な成長をにらんだ戦略的投資を積極的に行っているが、  
第1四半期では、社内計画に沿って執行した。
- 減価償却費は、前回予想通りの470億円。

## フリー・キャッシュ・フロー見通し



23

### ■ キャッシュ・フロー

- 前回予想から変更なし。
- 2015年度は、  
営業活動によるキャッシュ・フローを、1,225億円、  
投資活動によるキャッシュ・フローを、675億円、  
フリー・キャッシュ・フローを、550億円で見込む。



## 主な経営指標の推移



24

### ■ 主な経営指標

#### ➤ 前回予想と同じ

ROSが 9.0%

ROAが 10.1%

ROEが 13.5%

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION